

令和5年8月



No. 121

こんにちは 豊前市議会です



福岡県北部市議会議長・副議長会 (5/24、田川市にて)

CONTENTS 目次

6月定例会(6/5～6/23) 主な内容

| | |
|------------------|-------|
| 議案の概要・特別委員会の経過報告 | 2～4P |
| 令和5年6月定例会議案審議結果 | 5P |
| 一般質問 | 6～11P |
| トピックス・編集後記 | 12P |

議会へのご意見をお寄せください

発行 / 豊前市議会
豊前市大字吉木955
TEL82-8137 (直通)

ホームページ/
<https://www.city.buzen.lg.jp>



議案の概要

第2回定例会

令和5年第2回定例会は、6月5日から6月23日までの19日間の会期で開催されました。本定例会には、市長より、条例案3件、工事契約1件、補正予算3件、報告案件1件の合計8件、議員より意見書案1件が提出されました。

それぞれ所管の常任委員会で慎重に審査した結果、原案どおり可決・承認されました。なお、議案第30号、議案第32号、議案第33号、議案第35号、議案第36号、意見書案第3号について反対討論がありました。また、市長より人事案件2件が提出され、原案どおり、同意されました。



同意案件

市長からの提案に対し、全会一致で同意しました。
(敬称略)

■公平委員会委員

豊前市大字松江 鳥飼 香

■農業委員会委員

豊前市大字中村 山崎 廣美

豊前市大字鳥越 柏木 伸夫

豊前市大字大村 川崎 信彦

豊前市大字八屋 松本 克己

豊前市大字赤熊 松本 敏弘

豊前市大字三楽 濱田 剛

豊前市大字鬼木 畑中 安生

豊前市大字今市 我毛 真一

豊前市大字大西 山本 一彦

豊前市大字下河内 青木 一巳

豊前市大字大河内 寺光 正博

豊前市大字四郎丸 板井 照子

総務委員会申し入れ事項

◎市発注の公共工事については、発注内容などの工夫をすることにより、なるべく地元業者が入札に参加できるよう努めること。

文教厚生委員会申し入れ事項

◎重大疾患につながる生活習慣病予防のため、食生活改善などの啓発・事業を積極的に実施し、医療費削減により一層努めること。

予算決算委員会申し入れ事項

◎今委員会においては、内容を十分に理解していないような答弁が多々見られた。当委員会に出席する際には、委員からの質問に即答できるくらいのしっかりとした準備をすること。

◎副市長の代わりに部長制を導入したにもかかわらず、横の連携がまったく機能していないように思われる。導入目的を達成するように部長間の連絡調整を密に行い、部の垣根を越えた相互連携ができるよう努めること。

以上、申し入れました。

常任委員会・議会運営委員会の委員名簿

◎……委員長 ○……副委員長

総務委員会

◎黒江哲文○平田精一・梅丸晃・村上勝二・為藤直美・内丸伸一・岡本清靖

文教厚生委員会

◎為藤直美○梅丸晃・村上勝二・秋成英人・郡司掛八千代・鎌田晃二・尾澤満治

産業建設委員会

◎秋成英人○福井昌文・梅丸晃・村上勝二・為藤直美・内丸伸一・郡司掛八千代

予算決算委員会

◎福井昌文○村上勝二・為藤直美・内丸伸一・秋成英人・郡司掛八千代

議会運営委員会

・黒江哲文・平田精一・鎌田晃二・岡本清靖

◎岡本清靖○為藤直美・梅丸晃・村上勝二・黒江哲文・鎌田晃二

《令和5年度一般会計補正予算の概要》

【議案第34号】 専決処分(令和5年度豊前市一般会計補正予算 第1号)

食品等の物価高騰に直面し影響を特に受けている低所得の子育て世帯に対して生活支援特別給付金を支給することについて、承認しました。

◇子育て世帯生活支援特別給付金事業 45,954千円

【議案第36号】 令和5年度豊前市一般会計補正予算(第2号)

国庫補助事業及び県補助事業にかかる経費、その他特に措置する必要がある経費について、可決しました。

《主な事業》

| | |
|--------------------|-----------|
| ◇マイナンバーカード活用事業 | 99,460千円 |
| ◇物価高騰低所得世帯支援給付金事業 | 130,953千円 |
| ◇新型コロナウイルスワクチン接種事業 | 101,113千円 |
| ◇し尿処理施設解体事業 | 111,743千円 |
| ◇プレミアム商品券発行事業 | 11,653千円 |
| ◇学校給食費助成金(小学校) | 65,247千円 |
| ◇学校給食費助成金(中学校) | 19,803千円 |

【意見書案第3号】

東九州新幹線の早期整備と実現を求める意見書 (提出議員:岡本清靖・為藤直美)

東九州新幹線は、全国新幹線鉄道整備法における基本計画路線と位置づけられ、着工予定・開業予定ともに未定のまま現在に至っている。

東九州地域を縦断する東九州新幹線は、九州新幹線と接続することで、交流人口の増加、地域の活性化、産業振興などに大きな効果をもたらすものであり、産業、経済、文化等の発展に重要な社会経済インフラとして早期整備、早期実現が望まれている。よって、東九州新幹線の早期整備と実現のため、

1. 「第二期新幹線整備計画」の策定及び当該計画の策定に向けた調査のための財源確保
2. 東九州新幹線の整備計画路線への格上げ及び所要の財源確保
3. 地方公共団体の負担軽減のための財源措置の拡充

以上について、国へ強く要望しました。

第18回新型コロナウイルス対策特別委員会の経過報告

特別委員会は、5月15日に開催され、執行部より、新型コロナウイルスワクチン接種・地方創生臨時交付金事業について説明がありました。主なものは以下のとおりです。

●令和5年度 新型コロナワクチン接種スケジュール

(春接種)

5月27日 メディカルセンターにて医療従事者へ接種

6月～7月 集団接種(多目的文化交流センター)にて実施

(対象者:65歳以上、5～64歳の基礎疾患を有する者、医療・高齢者施設等の従事者で初回のワクチン接種が終了した方)

(秋接種) (秋接種)

9月以降 集団接種(多目的文化交流センター)にて実施予定

(対象者:初回接種を終了し前回オミクロンを接種した5歳以上のすべての方)

●感染法上の見直し

5月8日以降は、個人の選択を尊重し、自主的な取組をベースにしたものになる。感染者や濃厚接触者の法律に基づく外出自粛はなくなり、マスクの着用も個人の判断となる。

また、感染者数は、指定した医療機関での定点把握に変わり、週1回の公表になる。

その他変更事項については、市のホームページ、市報にて周知を行っていく。

新型コロナウイルス対策特別委員会 ◎…委員長 ○…副委員長 ◎為藤直美○村上勝二・内丸伸一・黒江哲文・鎌田晃二・尾澤満治

企業誘致特別委員会の経過報告

企業誘致特別委員会は、市政活性化に向けて、企業誘致を促進するものです。

令和4年12月8日に第10回の委員会を開催し、空席となった委員長の互選を行い、岡本議員が委員長に選任されました。また、新たな委員として郡司掛議員が指名されました。

なお前回の報告以降に開催された委員会の内容は、以下のとおりです。

第11回(6月15日開催)

執行部より豊前市企業誘致基本構想について説明を受け、委員より様々な意見が出されました。

●豊前インター付近は、物流の拠点になると思う。その前に、宇島久路土線を先に整備しなければならない。

●高速道路、北九州空港のアクセス道路として、宇島久路土線のウエートが上がってきていると思う。

●九電の土地、市の土地、学校の問題など近々にできるものもあると思うので、有効活用を考えたい。

●この委員会も執行部と一緒に取り組んでいきたいと思うので、※農産法のこともあるが、前向きに、早めに動いていただきたい。

※農産法：農村地域への産業の導入の促進等に関する法律のことで、農業と産業の均衡ある発展と雇用構造の高度化に資することを目的として定められた法律。

企業誘致特別委員会 ◎…委員長 ○…副委員長 ◎岡本清靖○福井昌文・梅丸晃・秋成英人・郡司掛八千代・黒江哲文・尾澤満治

令和5年6月定例会 議案審議結果

「○」……賛成 「●」……反対
 「議長」…議長職のため表決に参加しない

| 議案番号 | 議案等の名称 | 審議結果 | 梅丸 晃 | 村上 勝二 | 為藤 直美 | 内丸 伸一 | 秋成 英人 | 郡司掛八千代 | 黒江 哲文 | 平田 精一 | 福井 昌文 | 鎌田 晃二 | 岡本 清靖 | 尾澤 満治 | 賛成 | 反対 |
|---------|--|------|------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|----|
| 議案第30号 | 豊前市税条例の一部改正について | 原案可決 | ○ | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 議長 | 10 | 1 |
| 議案第31号 | 専決処分について（豊前市税条例の一部改正について） | 承認 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 議長 | 11 | 0 |
| 議案第32号 | 専決処分について（豊前市国民健康保険税条例の一部改正について） | 承認 | ○ | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 議長 | 10 | 1 |
| 議案第33号 | 工事請負契約の締結について | 原案可決 | ○ | ● | ○ | ○ | ● | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 議長 | 8 | 3 |
| 議案第34号 | 専決処分について（令和5年度豊前市一般会計補正予算 第1号） | 承認 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 議長 | 11 | 0 |
| 議案第35号 | 専決処分について（令和5年度豊前市国民健康保険事業特別会計補正予算 第1号） | 承認 | ○ | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 議長 | 10 | 1 |
| 議案第36号 | 令和5年度豊前市一般会計補正予算（第2号） | 原案可決 | ○ | ● | ○ | ○ | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 議長 | 9 | 2 |
| 同意案第2号 | 豊前市公平委員会委員の選任について | 同意 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 議長 | 11 | 0 |
| 同意案第3号 | 豊前市農業委員会委員の任命について | 同意 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 議長 | 11 | 0 |
| 意見書案第3号 | 東九州新幹線の早期整備と実現を求める意見書について | 原案可決 | ○ | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 議長 | 10 | 1 |



議長
尾澤 満治



副議長
郡司掛 八千代

議会からのお知らせ

議事運営上

議長・副議長は、原則として一般質問を行いません。

一般質問

そこが聞きたい
なんとかかしたい

『無党派』の一般質問

【質問項目】

(梅丸晃議員)

- ① 自治体DX
- ② 小・中学校再編後

【質問項目】

(為藤直美議員)

- ① 健康事業
- ② 子育て支援

【質問項目】

(村上勝二議員)

- ① 小中学校再編と地域づくり
- ② 指定ゴミ袋の価格改定
- ③ 国民健康保険制度とマイナンバーカード

※ここに掲載している質問のやり取りは、ごく一部です。
※文末の表記については、実際のやり取りとは異なり、「です・ます調」ではなく、「だ・である調」に統一しております。
詳細については、市のホームページに全文を掲載しておりますので、そちらをご覧ください。
また、議会事務局及び総務課に会議録を置いてありますので、お気軽にご閲覧ください。

市議会会議録はこちらから

豊前市議会

検索

自治体DXについて



梅丸 晃

梅丸議員 DXの推進においては、市民参加が重要な要素となる。市民の声やニーズを把握し、それに基づいてサービスや施策を改善していくことが求められる。新しくオープンしたZigzagの2階、コワーキングスペースにデジタル推進室のサテライトとして職員を配備し、市民や企業のデジタルにおける相談や市民の声、ニーズを拾う活用があつてよいと考える。各課に橋渡しをし、DX化することによって、サービスや施策を改善していくことも可能である。他の部署の職員も申請をすればテレワークを行うことができ、庁内ネットワークへアクセス可能になれば自席と同じ環境で仕事をすることも可能である。この提案に対し執行部の考えを伺いたい。

デジタル化推進室長 Zigzagに行けば誰でもデジタルに関する相談が気軽にできるということを実現するため、要望に応じた駆けつけを含め即応体制を整えていきたいと考えている。ただ、市民にとって安心・安全な行政サービスを維持する観点から、全ての職員がテレワークを行うことは困難である。

梅丸議員 次に、Zigzagの利活用として、民間企業や研究機関、地域のスタートアップ企業との協力関係を築き、共同プロジェクトや技術提携を通じて地域の課題解決や経済発展に貢献することが期待できる。インキュベーション施設やスタートアップの活用について執行部の考えを伺いたい。

商工観光課長 豊前市でビジネスを起す起業家を発掘・育成するためのセミナーなど、創業支援を行うと共にZigzagに進出している企業とも連携が取れるよう検討したいと思う。

梅丸議員 まちは機械がつくるものではなく人が創るものである。志を持った、意識を持った人たちが集い繋がることで、新たな賑わいができ、まちが活性化していく。そんな場所になれるようZigzagの変化と進化を期待する。自治体のDXについて市長の考えを伺いたい。

市長 デジタル田園都市国家構想は、不便なところ、自由に何でもできるような環境にないところこそ恩恵があると思う。さらに情報を集め、技術的な人材育成をしながら、市の職員が先頭に立つて勉強をし、市民の方、特に民間企業、事業所の皆さんのデジタル化も推進していきたいと思っている。

梅丸議員 皆さんがデジタルトランスフォーメーションにより、意識改革ができる環境整備を推進していただくようお願いする。



指定ゴミ袋の価格改定について



村上 勝二

村上議員 広報ぶぜん6月号に、7月1日から「指定ごみ袋」価格改定の記事が掲載された。値上げによるごみ袋の買い占めにより、既に店舗にも並んでいない状況だが、価格決定は何を根拠に誰がどこで設定したのか、お聞きする。

生活環境課長 業者より、原材料価格の高騰で値上げしたいとの相談があり協議し、市報等で通知した。村上議員 相次ぐ物価高騰の状況下で業者の苦境も分かるが、行政が認めて市民への負担を増やすことには反対で、業者への対応にも疑問がある。市は、指定ごみ袋について、手数料を取っていないし、関係する条例がないため、議会の審議や議決もいらぬ。市民からは、市と業者が決めたことを知らせるだけで市民は置いてきぼり。価格改定が妥当かチェックすべき市議会はノータッチでいいのかといった声がある。市民目線より民主的な仕組み作りが必要だと思うが、議会への報告はどうなっているのか。

生活環境課長 4月下旬に価格が決定し全議員に個別に説明した。

村上議員 指定ごみ袋は、いわば公共料金のようなもの。議会の議決がいらぬことに納得できないし、市民代表が審議する機会をスルーしてしまう現状にメスを入れる必要がある。値上げ分をただ価格に転嫁するのは問題で、条例があれば議会としての政治的判断も加わり、市民には転嫁せず価格据え置きをする議決は可能ではないのか。今年中は価格を据え置いてほしいとの声もある。業者への損失補填や値上げ分を市が負担したらいいと思うが、いかがか。

すると価格が均一になり、かえって市民の負担が増える可能性もあるため、今のところ予定はない。

村上議員 手数料を取らず今は安いからとなつているが、値上げすることを前提にしないでほしい。市長の考えをお聞きする。

市長 生活に直結する問題だが、行政がどこまで関わるべきなのか。市が一定の価格にすることは独占禁止法に抵触するのではないかと。民間の事業者も競争による価格設定をして自由度を持たないといけない。我々が幾らと決めるのは厳しいと思う。

村上議員 独占禁止法の問題も調べる必要がある。やはり業者と市だけで協議したこと、また市側の裁量で変わってくるのが問題だと思う。ぜひ手数料条例の制定を求める。



子育て支援について



為藤 直美

為藤議員 豊前市にある子育て支援拠点について伺いたい。

福祉課長 豊前市地域子育て支援センター向けのこを、ちづか保育園に隣接して設置している。また、令和4年から、福祉課に子ども相談係を設置し、子どもの健康や18歳までの子どもと家族の相談を受けて適切な支援に繋げていくという、子ども家庭総合支援拠点を設置している。

為藤議員 地域子育て支援センターと子ども家庭総合支援拠点の利用数について伺いたい。

福祉課長 令和4年度は、地域子育て支援センターが延べ469件、子ども家庭総合支援拠点での相談件数が延べ2213件の見込みとなっている。

為藤議員 次に子どもの居場所支援事業について

と思っている。

為藤議員 市長の考えをお聞きする。

福祉課長 現在、豊前市では、この事業の受け皿になる組織等が把握できていない。事業内容を確認し、該当するものがあるかどうか、調査していきたい。

為藤議員 この事業は、市役所から発信しなければ分からないと思う。各地域への情報公開をして頂きたい。豊前市としての子育て施策を市民に分かりやすくするためにも、具体策を打ち出していくべきだと考える。少子化対策について、各課にお尋ねする。

健康長寿推進課長 訪問や健診時に、母子の相談、悩み事を入念に聞いて、子どもがすくすく育つ環境づくり、子どもを育てやすい環境づくりに努めたいと思う。

福祉課長 国の児童福祉法の改正やこども基本法の制定に伴い、児童虐待を未然に防いだり、子どもとその家庭からの相談を受けて適切なサービスにつないでいくといった体制、組織の見直しを行う必要がある

市長 市役所が先頭になり、地域社会づくりを目指していくためには、市役所だけでなく、関係事業所、機関や地域社会の一人一人が参加できるような体制をどのようにつくっていくかが、大きな課題である。少子化という国難をどう越えていくのか、覚悟して取り組まなければならない重大な問題だと認識している。

為藤議員 目的を持って、具体策を掲げて、全員で向かっていくことが、大きく変えていく原動力になる。知恵を出し合い、助け合い、チームワークで、明るく、健康で子育てしたいまち豊前を目指して、今後も共に頑張っていけるようお願いする。



一般質問

そこが聞きたい・なんとかしたい

『平成会』の一般質問



福井 昌文



鎌田 晃二



黒江 哲文



平田 精一



秋成 英人



内丸 伸一

※ ここに掲載している質問のやり取りは、ごく一部です。
※ 文末の表記については、実際のやり取りとは異なり、「です・ます調」ではなく、「だ・である調」に統一しております。
詳細については、市のホームページに全文を掲載していますので、そちらをご覧ください。
また、議会事務局及び総務課に会議録を置いておりますので、お気軽にご覧ください。

市議会会議録はこちらから

豊前市議会

検索

【質問項目】

(秋成英人議員)

① 豊前市の諸問題

(福井昌文議員)

② 市政運営

(平田精一議員)

③ 豊前市のさまざまな問題

(内丸伸一議員)

④ 豊前市行政全般

(黒江哲文議員)

⑤ 豊前市のビジョンを執行部に問う

(鎌田晃二議員)

⑥ 認知症対策

⑦ 障がい者支援

⑧ GIGAスクール構想

豊前市の諸問題について

秋成議員 観光協会の今後の展望について伺う。観光協会は、Zingzagやサテライトオフィスの指定管理事業等、市内観光分野だけではなく、まちづくりに積極的に参画しており、行政との相乗効果により、さらなる活性化に向けた取り組みを続けてほしいと思う。NPOやNGO、社団法人などは、行政が担うには適さない問題などを行政に代わって行い、柔軟に対応している場合も多々あり、それらに所属する方々は、情熱を持ち、解決への理念を持ちながら、働いてくれている。しかし、その多くが継続して課題に向き合うための金銭的な問題を抱え続けており、行政は自立を促す一方で、脆弱な運営をしないために、どう手助けしていくのが課題である。観光協会には市から1,500万円を支出しているが、この補助金の使途内訳はどのようなものになっているのか。

商工観光課長 人件費が

主なもので、その他は講師料や旅費、燃料費、広告印刷費、消耗品などである。

秋成議員 使途の内訳の多くが人件費であるならば、市職員を出向し、事務局長を設置するのはいかがなものかと思う。これは、追加で補助金を出していることと同じである。誤解のないように申し上げるが、市にとって必要な団体であり、応援したいと思っているが、他の指定管理者への公平性に欠け、観光協会の本当の自立にはつながらないと考えている。そこで、事務局長を市から出す必要性と期間、収益を踏まえた指定管理料の見直し等をどう考えているのか答えていただきたい。

産業建設部長 昨年、観光協会の事務局長が退任され、後任を見つけないことができなかったため、職員を出向させている。一刻も早く適任者を探すということに継続している。指定管理料の見直しについては、事務局長分の人件費を削減

する方向で、財務課と協議をしている。

秋成議員 市長もこの観光協会には非常に力を入れているが、市長の考える観光協会の展望、また市長自身がどのように取り組んでいくのか聞きたい。

市長 観光協会は観光協会として自立をしていただきたい。観光協会が市域の情報をつかり持ったうえで、自主財源として補助金をとれるよう、実際に立案して事業を実施していくかたちを目指したいと思っている。

秋成議員 市は指定管理者に対し、真のパートナーになれるよう、自立に向けての支援を行わなければならないが、事務局長がでざる人がいないことは観光協会の落ち度であり、そもそも対応できるスキルがないのであれば、指定管理を受けること、また指定管理を続けること自体に疑問を持たざるを得ない。観光協会が独立して人材を獲得し、市職員の出向はすぐにやめていただきたいと思う。

市政運営について

福井議員 市職員の人員配置について、質問する。戦国武将の武田信玄が名言として残した言葉に、「人は城、人は石垣、人は堀、情けは味方、仇は敵なり」がある。「立派な城があっても人の力がないと役に立たない。国を支えるのは、一番は人の力であり、信頼できる人の集まりは強固な城に匹敵する。情けは人の心をつなぐことができる、しかし仇が多ければ結局は国を亡ぼすことになる。」ということであるが、私も全くそのとおりだと思う。ここ近年、市役所職員の病気休職者、早期退職者が多いように思われる。その原因として、忙しい部署の職員が疲弊するなど、人員配置に問題があるのではないかと考える。この点について、見解を答えていただきたい。

総務課長 部署ごとに業務量にばらつきがあるが、この数年は新型コロナウイルススやマイナンバーカードに関連する部署で、業務負担の増が非常に顕著になっ

ていると認識をしている。

福井議員 新型コロナウイルスは、市役所職員が一丸となって業務に当たっていた。通常時においても部署の垣根を超えた応援体制ができるのではないかとと思うが、業務の平準化を図るなどの考えはあるか。

総務課長 これまでも業務負担の平準化に取り組んできたが、それを継続しつつ、適正な人員確保や効率的な組織編成を図ることで、働きやすい職場の実現を目指したい。

福井議員 状況をよく吟味して、今後の業務負担軽減の対策をお願いしたいと思うが、市長、一言。

市長 職員一人一人が健康で自分の使命をしっかりと果たそうという気持ちを失わないように、職員の立場に立ちながら解決していくという気持ちで、改善できるように頑張っていきたいと思う。

福井議員 働きやすい環境にするようお願いしたい。次に、複数の職員が外

部に派遣されているが、日頃より職員は限られた人員で通常業務を遂行しており、感染症まん延や自然災害などの緊急事態が発生した場合は、現状の体制では対応が困難である。義務的な派遣もあると思うが、市役所という本丸を守るためにも、地域おこし協力隊の活用などにより、極力派遣職員を減らし、市役所内部の体制を強化する必要があると思うが、執行部の考えを聞きたい。

総務課長 地域おこし協力隊の採用や民間活力の導入も踏まえて、災害や緊急的な事業への対応が円滑にできるよう、しっかりと体制は構築をしていかなければならないと認識している。

福井議員 市民あつての豊前市ではあるが、業務遂行しているのは職員である。職員がいなければ住民サービスは提供できない。豊前市という城を守るため、より適正な人員配置、柔軟な体制づくりをお願いする。

豊前市のさまざまな問題について

平田議員 買い物弱者対策として、移動販売車を平成30年度から実施しているが、少子高齢化が進み65歳以上の割合が増加し、免許返納による買い物弱者が増加することが目に見えている。徐々に利用者も増えているようだが、販売場所によって利用率が違う理由は分かるか。

健康長寿推進課長 市では現在6カ所、グリーンコープが高齢者生活支援事業として買い物物が不便な方への支援を行っており、他の利用者とのコミュニケーションの場や見守りなども兼ねている。利用の検証はしていないが、三毛門地域の利用人数が多く、家の数が関係していると思われる。

平田議員 今後、移動販売をする上で企業も実績を伸ばして行かないと、いつまでやってくれるか分からない。販売場所を増やす予定があるのか、お聞きする。

健康長寿推進課長 今の6カ所での販売体制がギ

リギリである。今後、利用者が増え売り上げも増えていけば可能になると思う。

平田議員 次に、新型コロナウイルスの予算による軽トラでの移動販売についてどういう目的で導入したのか、お聞きする。

商工観光課長 高齢者やコロナ禍における市内事業者の支援と買い物弱者への支援を趣旨に、国の臨時交付金を財源として豊前市移動スーパー等支援事業補助金を交付した。2社が手挙げをして営業を行っている。

平田議員 合河地区の地域づくり協議会の中で、買い物弱者支援として販売場所を広げて、防災無線で周知したがなかなかお客さんが来なかった。品揃えはグリーンコープの大手にはかなわないと思うが、この2社に継続してもらうために、お弁当の配達などお客さんのニーズに合わせた販売方法を考える必要があると思うが、いかがか。

商工観光課長 経営も赤字が多いと聞く。個別で配達する方法やニーズのあるお弁当などを中心に事業を展開していくように協議しているところである。市も協力していきたい。

市長 本当に買い物に困っている方々をどう支えているのか大きなテーマである。その中で移動スーパーの事業に大変苦しんでいる状況をどう打開していくか、いろんな知恵を集めなければならぬと思う。デジタル化が進み、店舗の中を映して、家に居ながら商品を注文できるなど、あらゆる手段を使い工夫しながらやっていく必要がある。



豊前市行政全般について

内丸議員 ハレノヒプロジェクトについて伺う。高校生を主なターゲットとして駅前交流施設KI-TENを開設したが、高校生への聞き取りや相談、会議への参加など、高校生の考えを取り入れることをしたか。

商工観光課長 プロジェクトを始めるときに、青豊高校2年生を対象に、京築未来探究という出前授業を始めた。この議題の中に、駅前周辺の賑わいづくりについて高校生と意見交換を行うものがある。去年はPR動画作成など、ワークショップを3回行った。

内丸議員 今後は、高校生をはじめ市民にKI-TENを認知してもらつこと、そして足を運んでもらうことが課題となる。多額の費用を使い開設した施設なので、たくさんの方々から意見を聞き、人が集まり賑やかなKI-TENとなるよう対策を取っていたきたい。次に、個人情報取り扱いについて伺う。コロナウイルス感染症対

策の一環として、市役所をはじめ公共施設や様々な施設で手指消毒・検温ができるようアルコールの設置や非接触型の体温計が導入されたが、こと5月から感染症法上の取扱いが変更されたため、使われなくなった顔認識体温計が転売され、中に残っていた顔画像のデータが流出する問題が、発生している。豊前市には、個人情報が残るような体温計はあるか。あるのであれば保有数はいくらあるのか。

総務課長 現在30台ほど保有している。顔登録機能を有しているものが大半であるが、いずれもその機能を運用開始当初から使っていないため、個人情報として残されていない。

内丸議員 顔認識体温計のデータの管理やデータの流出防止策など、対策しているものがあれば教えてください。

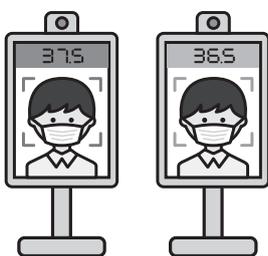
デジタル化推進室長 検温カメラについては、SDカードに顔認証の画像を保存するタイプを使用し

おり、SDカードを差し込むような運用はしていないため、カメラの中に顔画像を含む個人データが保存されるようなことはない。

内丸議員 コロナ収束後、顔認識体温計などの取扱について、どのような対応を取る予定か。

デジタル化推進室長 技術的には、まず機能として使わないというほかに、行政サービスを提供する際に、利用される個人情報についてどういったものを収集するのか、必要に応じて十分な事前告知を行うなど、運用面における配慮を徹底する。

内丸議員 体温計で情報が流出するということがないということだが、処分するときまで、しっかりと対応していただきたい。



豊前市のビジョンを執行部に問う

黒江議員 豊前市の現状を把握し、豊前市の目指している将来の姿をどのように描いているのか。その現状と今後のビジョンについて、質問していきたい。

第6次総合計画について、市民意識調査の結果を基に基本目標があるわけだが、この計画への市長の根本的な考え方を尋ねる。

市長 自分のまちを自分でも参加をしながら自分のできる範囲は自分でやろうという、市民協働のまちを我々が呼び掛け、働き掛けなければならぬ。今までは、総合計画を憲法としてきたが、外圧や自然災害で変わることもある。1回決めたら絶対変えないのではなく、柔軟に変えていく。そういう体質の役所が変わっていかねければならない。

黒江議員 市民協働のまちづくり、官民一体の連携をしていかないと、自治体の維持も厳しい。そこで、協働のまちづくりで重要なのが、庁内には生涯現役事業をはじめ、様々な官民連携の事業がある。その各

事業ごと、長期的、短期的な計画か、予算を何処に特化するのか、全ての事業を拾い上げ豊前市のビジョンを明確にし、上層部から担当職員、市民へと理解を求め、重要な事だと思える。そこで、観光協会は理想の方向に進んでいると思うが市長の考えを伺う。

市長 発足間もなく、立ちできていない観光協会を放つたらかしにしないため、助走のときには、一定期間は伴走が必要なのではないか。この10年、20年は、インバウンドの動きも急速で、国はそれにふさわしい事業展開をし、補助金を付け、県もサポートする補助制度を持っている。我々の中にもこの流れを熟知する人材を育成しなければ、自分たちのものに取れ込み、将来的には、観光係が行っている祭りの準備などを観光協会にアウトソーシングしてもいいのではないかと思っているくらいである。

黒江議員 観光協会は、高度な事業をボランティア

で頑張っている。私の考えは、官民共同の政策を打ち出すなら、行政が補助金の確保をするだけで、あとは民間に丸投げするというのは、協働のまちづくりではないと思う。やはり、成果が出るまで職員も責任を持ってやるべきである。観光といえば、歴史、文化、食、自然、それらに関わる各種団体があり、これら全てを観光協会に担わせることは、厳しいと思う。豊前市長の政策として、観光ビジョンを政策として打ち出し、ここは会議所、ここは団体や地域と掲げることが重要ではないか。豊前市のビジョンをテーマに質問したが、豊前市を発展させるためには必要ではないかという私の思いではないか。ぜひ市長、市民が納得いく市民目線で対応できるような、日本一の協働のまちづくりくらいのテーマを持って、取り組んでいただきたい。

認知症対策について

鎌田議員 日本の認知症高齢者の数は、2012年の時点で約462万人、2025年には、約700万人に増加し、65歳以上の5人に1人に達すると推計されている。国は認知症施策推進総合戦略を策定し、

認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で暮らし続けることができる社会を実現することを目標に定めた。豊前市も対策を講じていると思うが、現在の取り組み、これからの対策の考えを聞きたい。

健康長寿推進課長 市では地域包括支援センターを設置して関係機関と連携し、サービスを提供している。また高齢者が地域で安心して暮らせるよう、豊前市高齢者保健福祉計画を策定し、事業などを行っている。今後も認知症対策に力を入れていきたい。

鎌田議員 いろんな工夫をしながら、各自自治体を取り組んでいる。先進自治体を参考に取り入れていただきたい。それから、認知

症の人の介護者への支援ということ、何か市で施策を講じているものがあるれば聞きたい。

健康長寿推進課長 介護者に対しての支援としては、相談窓口の充実や特定健診、特定保健指導などを行っている。

鎌田議員 次に、ボランティアによる居宅訪問や家族向けの介護教室の開催ということ、見守り隊や地域づくり協議会で介護教室の開催を推進するのはどうか。

健康長寿推進課長 地域づくり協議会やボランティアセンターなどと協力し、認知症サポーターになった方が地域で活動していくことにつながるようしていきたい。

鎌田議員 認知症は、もはや個人の問題ではなく、面からも認知症診断助成制度といった支援があるが、こういったことも取り組んではどうか。

健康長寿推進課長 市では各種健診や教室を行って

おり、その中で物忘れ相談などの様々な相談を受けている。

鎌田議員 認知症に関する取り組みについて、質問・提案をしたが、認知症サポーターの養成や見守り支援など、住民の参加を促進する工夫が必要だと思ふ。そのため、認知症支援に関する周知など、参加者の掘り起しや、地域づくり協議会などで認知症・高齢者等の日常生活の支援、また地域住民が認知症の支援に継続して参加できる仕組みづくりが今から大事になってくる。そして保健事業や検査助成事業といったきめの細かな対策もお願いしたい。最後に認知症対策への取り組みについて、市長に聞きたい。

市長 認知症対策は、予防する体制が一番だと思う。そのためには、自分自身の体調について、一人一人が気づくこと、そして一人一人が動くこと、このことが良くすることに繋がる。市役所だけではなく市民全体でこれを支えられる、そんな豊前市ができたと思うている。

全国市議会議長会表彰



福井昌文 議員
(15年表彰)

岡本清靖 議員
(15年表彰)

福井昌文議員(議員15年表彰)、岡本清靖議員(議員15年表彰)が、令和5年6月14日に東京で開催された第99回全国市議会議長会定期総会において、市政振興に尽くされた功績が認められ、表彰されました。

議会議事務局からのお知らせ

政治家の寄附の禁止(公職選挙法第199条の2第1項、第2項)

選挙の有無にかかわらず、政治家が選挙区内にある者に対して寄附をすること(政党その他の政治団体や親族に対するもの及び政治教育集会に関する必要やむを得ない実費の補償は除かれます。)は、**その時期や名義のいかんを問わず禁止**されており、次のものを除きすべて罰則の対象になります。

- 1.政治家本人が自ら出席する結婚披露宴における祝儀
- 2.政治家本人が自ら出席する葬式や通夜における香典

上記の場合であっても、選挙に関してなされた場合や通常一般の社交の程度を越えている場合は処罰されます。なお、政治家以外の者が、政治家名義の寄附をすることも罰則をもって禁止されています。

豊前市議会は、初盆参り等については、法令遵守をいたします。

編集後記

市議会議員として4年目を迎えた今年の3月、私の住む地域の小学校と中学校の卒業式がありました。続く4月の同小・中学校の入学式案内も受け、初めての参加となりました。

コロナ禍のこの3年間、子どもたちはどうだったのか。全学休校から始まり、修学旅行などの諸行事も中止。消毒、マスク生活、給食は黙食、オンライン授業の開始などコロナ対策最優先の学校生活。

そんな中で学業に、スポーツに励み、友情を育んできたという中学校卒業生あいさつに感動、そして未来への旅立ちにエールを送りました。

小・中学校再編で、地域から小学校も中学校もなくなるとうしている現実。地域が直面する課題とコミュニティの在り方も問われています。

豊前市全体の一大事業であり、市民の理解と納得なしには進まない。

村上 勝二

次回の定例市議会は
9月です

議会を傍聴しましょう

市議会の様子を知る最もよい方法です。
みなさんの傍聴をお待ちしています。
また、本会議については、インターネット中継
をしております。

- 編集 編集委員会
委員長：梅丸晃
副委員長：為藤直美
委員：村上勝二 郡司掛八千代
秋成英人

- 印刷 築上印刷有限公司